

聖徒の道

6

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第6号 1964年6月1日発行

SEITO-NO-MICHI



予言者ジョセフ・スミス

予言者のことば

……大管長 デビド・O・マッケイ…318

伝道部長メッセージ

……ダウエン・N・アンダーセン…320

献堂の祈	324
教会堂写真紹介	326
献入れから献堂まで	330
神への奉仕は数えられる	333

パウロが「あらかじめさだめられる」といったのはどう意味ですか

質疑応答

ジョセフ・フィールディング・スミス長老…335

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹……

ジョセフ・フィールディング・スミス長老…339

神の力—神権 ……エルドン・タナー…344

糸図の道しるべ ……356

伝道部扶助協会長メッセージ

……ペギー・ヒュイシ・アンダーセン…358

ジョセフ・スミスの生涯(19) ……362

支部だより…348 伝道部だより…354

聖徒の道 第八卷 第六号

1964年 6月号



表紙

ゴルドン・B・ヒンクレイ十二使徒評議会々員

一九六四年四月二十六日北部極東伝道部東京北支部と東京西支部の建物の献堂式が行なわれた。

献堂の祈りはゴルドン B ヒンクレイ十二使徒評議員によって献げられた。







「神はその生みたまえるただ一人の御子をつかわすほどに世の人を愛したもうた。これは御子を信する人がだれでも滅びずに永遠の生命を得るためである。」それで私は教会の兄弟姉妹たちと共に喜ぶのである。その神感を受けてイエス・キリストはイエス・キリストの教会をたてたもうた。それは人間が福音に従順であることによって平和を得るためであった。このほかに道はない。いたるところで人間は平和を求めて努力をしているが、人間が平和を得るとき、人間は福音の諸原則を实地に行なうことによってのみ平和を得ることができるのである。キリストの福音は生命の哲学、生活の科学であって、その本質は今から二千年前に天使たちによって予告された。

予言者のことば

予言者 ジョセフ・スミス

大管長 デビッド・O・マッケイ

今述べたことが近代の大予言者ジョセフ・スミスに啓示された福音の精神であって、このジョセフ・スミスに「父なる神と御子」があらわれたまい、後に天の使者たちをつかわしてこの青年に指示を与えたもうた。ジョセフ・スミスは、近代に主イエス・キリストの御ことばを受けて語った数々の予言者の一人であって、ジョセフ・スミスはわれわれに何を与えているだろうか。それはイエスが肉身をもって働らいておいでになったうちに基礎が置かれた話と同じ話、同じ福音である。それならば、何と喜ばしいたよりがこの世に伝えられたではないか。かたよっていい判断をする人ならだれでも、この宗教的指導者の生涯を研究して、彼が真に偉大な性質をゆたかにもち、

それはまた神のみこころを知りたいというねがいと、神のみこころを知ったときそれに従がうという決意とから来たというこころを知って深く心に感ずるにちがいない。

ジョセフ・スミスの一生は、千八百五年の十二月二十三日から千八百四十四年の六月二十七日に至る三十八年と六か月余であった。その間ジョセフ・スミスは神の導きによって「モルモン経」の翻譯を行ない、「教義と聖約」のついでに数々の啓示を受けた。また啓示を受けて「高価なる真珠」のついでに、古代写本からの翻譯を行なった。彼はニューヨーク州とニューヨーク州の手に負えない農場に働らく一労働者から身を起して、シカゴがまだ小さな都市にすぎなかつたときイリノイ州最大の都市であつたノーヴー市の市長となつた。そして「予言者の塾」を組織し、大学を設置し、神の教会を組織した。この教会こそ完全な組織をもつてその教会員に完全な助けを与え、どんなあらゆる探しをする人たちも、またどんなに偏見をもつた人たちも感嘆をしている教会、すなわち全世界に在る二百万以上の教会員に今日霊のなぐさめと靈感とを与えている教会である。

この教会の組織を注意深く研究するならば、それはイエス・キリストが肉体をもつてこの世に居られたもうたとき確立したもうたまことの教会がもつていた特質を次のように回復し完成していることがわかるにちがいない。

(一)個人の権利と進歩を守るに必要なあらゆる規定をそなえた強力な中央統治機関のもつすべての長所が具体化されている。
(二)その定員会と補助組織とにより、広い範囲にわたつて自由に適用のできる教育制度を提供している。これはまことに安全であり、自治団体の真髄であり力である。

(三)ステーク部、伝道部、ワード部、支部、定員会、補助組織等にその指導者組織の配置を行なうことにより効果と進歩を高めている。あらゆる下部組織の単位はそれぞれの用務を担当するが、しかもその各々は中央統治機関と密接な連絡を保っている。下部団体にとって有益であり有利であることがわかつた手続きの方式は、全会員のためにすぐさま採用することができ。

今述べたように、教会はその完全な組織によって、個人の幸福と、社会の調和と平安に役立つ根本的に必要なものを最も効果的に供給している。私が必要なものと言ふのはすなわち教会の兄弟愛、教育、誤解の友好的解決、社会的経済的要求ななく、霊の成長に対する条項である。

神の子らに幸福と救いを与えるために神がそなえたもうた「永遠の計画」についてジョセフ・スミスがどう考へて世の中に提出したかは「見よ、これがわがににしてわが栄光、すなわち人に不死滅と永遠の生命をもたらすなり」(モーセの書一〇三十九)というすべてを含む宣言の中に総括されている。

予言者ジョセフ・スミスの生涯と彼が神の命によつて回復したまことの教会とは「神の御子」である基督・イエスをあかしする新しい証拠として立っている。「われらのなす最後のあかしはすなわち、主は実に生きたもうたことなり」(「教義と聖約」七十六〇二十二)。

私は予言者ジョセフ・スミスと共に敵爾に次のあかしをする。すなわちこれこそイエス・キリストの教会であり、主けるキリストはその頭首として教会を統治したもう。またキリストの「救いの計画」は人類のささえてあり、キリストの福音は個人にとつても国家にとつても最も安全確実な指針である。

「それゆえ、見よ、わたしはこの民に、再び驚ろくべきわざを行う。それは不思議な驚ろくべきわざである。彼らのうちの賢い人の知恵はほろび、さとい人の知識はかくされる」（イザヤ書二十九〇十四）。

イザヤの予言が事実となってあらわれる日は近くにきています。この「不思議な驚ろくべきわざ」は、長い歴史をもつ日本と沖繩のすみからすみまでひろがるにつれて具体的にあらわれて行きます。日本と沖繩における神の御わざのために今はまことに文字通り「新しい時代」であります。主なる神は今これらの国に住むすばらしい民にそのみたまを豊かに注いでおいでになります。このことは、東京で二つの美しい教会堂が献堂されたことよって証明されま



伝道部長

ダワエン・N・アンダーセン

めに協力して働いた人々の信仰と献身を記念する建物であります。この偉大な国に行なわれていることの「姿をもっとはっきり頭にかべる」ことのできる助けとなるように、私はこのたび東京北支部の教会堂の献堂に際して行なわれた「十二使徒会々員」ゴールドン・B・ヒンクレイ長老のお話をのこらずみなさまにわかちたいと思います。

「わが愛する兄弟姉妹たちよ。

今日こそ私が長いあいだ祈り求めてきた日であります。今日こそ私がささげた幾多の祈りに対するこたえであります。今日こそ日本におけるわが教会の歴史にいつまでも忘れられない日であります。すなわち今日こそ二つの建物が献堂される日であります。これらは偉大な長い歴史を持つ「ジャ」の国々において、わが教会によって建

てられる最初の二つの建物であります。この日に会えるのはありがたいことであります。アンダーセン伝道部長はさきほどヒーバー・J・グラント前大管長のことを言われましたが、私は今日グラント前大管長が私たちと共にここに来て居られると信じます。これら二つの建物を献堂することは、とりもなおさずこの日本の国を主に献げたグラント前大管長の祈りが事実となつてあらわれたことであります。かえり見れば千九百一年八月のある日曜日、グラント前大管長と彼と共に働らく宣教師たちとは横浜の南にある或る岡の中へ入つて行きました。そして最初に日本に来たこれらの四人の宣教師は円をえがいて集り、「感謝す予言者」の讚美歌を唱いました。それからグラント前大管長は、日本の地を、回復されたイエス・キリストの福音を宣べ伝えるためにささげました。グラント前大管長はまずこの日本の地に主なる神の祝福があるように祈り求め、次に悪の霊が日本の地から取り去られるように祈り、そして神のみたまが人々の心を動かしたもうようにねがいました。しかし、主なる神はその使徒の祈りがひじょうに速く成就するのが適當であるとお考えになりました。そして、それから六十三年の年月がすぎ去りました。今、私もあなたがたもそのときの約束が事実となつて現われた日を目のあたり見て居ります。それは現に神が人々の心を感動させておいでになるからであります。兄弟姉妹たちよ、あなたがたが今日ここに来ておいでになるということこそその事実をおごそかに証明するのであります。しかしながら、これは日本の地にあるわが教会にとって将来真に偉大なおどろくべき目を迎える夜明けにすぎません。もしもあなたがたが忠実であり、たえず祈り求めて怠らなかつたなら、主なる神は日本の地上にかぎりなくその祝福を注ぎ

たもうにちがいありません。あなたがたは、その民のために昔結ばれた約束がすべて事実となつてあらわれることを見るでありましょう。先祖のころはその子たちの上に向けられ、子たちのころはその先祖の上に向けられにちがいありません。福音の精神は民の間にひろがり、現在ある何千という会員に対して何万何十万の会員のある時が来るにちがいありません。さて、今日ここに集つておられるすべての方々には次のように申しあげたい。すなわち、人々の上に主のみたまが注がれるように祈りなさい。朝晩ひざまずき、ひそかな祈りのうちに、主なる神が日本の地を祝福したもうように祈りなさい。またそのみたまが日本の国にとどまりたもうよう家族と共に主なる神に祈りなさい。教会の中でするようになされることはすべて忠実に実行しなさい。主は出来ないことをせよとあなたがたにおいにはなりません。今日ここに立っているこれらの若い(勤労)宣教師たちは、その事実を証明しています。彼らが始めて召されたとき、彼らは、その召しを遂行する能力が自分たちにあると考えてはいませんでした。しかし、今あなたがたが見ているレンジとセメント(から出来た建物)は主の約束が事実となつてあらわれた証拠であります。

日本の国へつかわされる宣教師たちを支持してください。彼らに定められた仕事は容易ではありません。彼らの仕事は軽いものでありません。彼らの父母は彼らを受して居り、彼らが遠い日本の地へ来るために故国を離れるに際し別れのことばを告げるとき彼らのために涙を流します。宣教師たちの父母は、その子らを宣教師としてこへつかわすために多大のぎせいを払っています。また宣教師たちはこのむつかしい日本語を覚えるために努力しています。しかも彼

らの会う人々の大部分は彼らの言うことを聞いてくれません。この宣教師たちは、あなたがたの助けと祈りとあなたがたの祝福とが必要です。兄弟姉妹たちよ、彼らが働らくときに彼らを支持し、たえず彼らのために祈ってください。また福音の道を求める人々のためにも祈り、主のみたまが彼らの心を感動させ彼らの精神を明らかにしたもうように祈ってください。そしてこの求道者たちがあなたがたの中へ入ってきたなら、彼らの方へ兄弟愛の手を伸ばし、彼らをかかえ、キリストの福音の精神の中に包んで、あなたがたが彼らを歓迎し彼らが必要としていることを知らせなさい。あなたがたは他人のために奉仕をして始めて自分の信仰とあかしが強くなるのです。私は今黙示者ヨハネのことばをあなたがたにさしあげます。「汝ら死に至るまで忠実なれ、さればわれ汝らに生命の冠を与えん」と。

さて兄弟姉妹よ。私は今日の事を実現させたすべての人々に感謝します。私は、この家を主なる神に建てるために働らいた日本中のすべての人々のことを思い、また全世界に居る忠実な聖徒のことを思っています。この建物を建てるために支払われた金の大部分は他国に居る人々の聖い捧物によるのであります。アメリカ、およびヨーロッパ諸国における「やもめの乏しい献金(貧者の一燈)」が集ってみなここに來ていたのであります。従って、この建物は多くの国に居る人々の信仰によって実現していることを忘れないように、そして兄弟姉妹よ、私たちはいつも感謝の念を抱いて歩こうではありませんか。また私たちは心の中に悪を抱いてこの建物にけって入らないように、私たちは玄關を出るときにすべてのかげ口と悪口をすてて来るように、そして愛の精神が私たちの心に宿っているよう

にしようではありませんか。私の兄弟姉妹よ、あなたがたの上に神のめぐみあらんことを、またあなたがたの心と家庭に平安があるように神よめぐみたまえ。また今日私たちがこの建物を主に献げる如く、私たちが神のお役に立つため、私たちの生涯を再び捧げるように神よめぐみたまえ。また、この国の人々が主イエス・キリストを礼拝することによって全地の民と一つになるため、あなたがたの助けによってこの偉大にして美しい日本の地に神の王国が建つように神のめぐみあらんことを。さてこれから主なる神に献堂の祈りを捧げるに当り、あなたがたは一人のこらず頭ををたれ目をとじていただきたいと思ひます」。

まことに「不思議な驚ろくべきわざ」は今具体的にあらわれていきます。神の知識をもつときには、神の王国を建てるために全力をつくして働らく責任が生じます。私たちは、神の御わざの「新しい時代」のために強力な基を置く神聖な召しをもっています。私たちは次のような三項目の建設計画を遂行する役目をもっています。それはすなわち、

一、自己建設 二、教会堂建設 三、指導者建設であって、もしも私たちの一人一人が「自己建設」という第一の項目を完遂する目的で一生けんめい働らくならば、そのほかの二項目は自然に成就するにちがひありません。その責任は私たち一人一人の上にあります。その責任を果すためには一層大きな献身と一層大きな努力とが必要であります。完成した二つの教会堂は前に予想されていたよりも少々多く費用がかかっています。従って、会員一人一人が建築宣教師計画を支持するために、一箇月百円を寄附することは至急にせ

ひ必要なことであります。また各支部が各々の支部基金を増すための計画をたえず解決してゆくことも至急にぜひ必要なことであります。以上は、私たちが自己を建設すると共に教会堂をいくつも建設することのできる方法であります。また私たちは神権者を援助しそれを拡張するのを助けて建築指導者の一部になることができます。

もしも一人一人の会員が一箇の真珠と一枚の音盤とを手に入れるならば、私たちはハワイの神殿へ私たちの指導者を大勢送ってさらに訓練と知識とを受けさせる基金をもつことができます。「LDS聖徒は唱う」の音盤は、会員一人一人が秘蔵の財産として手に入れるべきものであります。

私たちがこの「不思議な驚ろくべきわざ」の姿をはっきり頭にとらせることのできるようにというのが私の祈りであります。そのわざを実現させる責任は大きいけれども、受ける祝福のすばらしさも大きいものであります。神は、私たちの達成できないことは何も要求なさいません。また神は、私たち自身のできることを何もしてくたさいません。神は、私たちが自分の仕事を充分やってのけるように助けてはくたさいませんが、その仕事を私たちが自分でやるように要求なさいます。私たちはもっと忠実になり、またもっと主に仕える能力を増すことよって、「新しい時代」をいつでも迎える準備をしていようではありませんか。



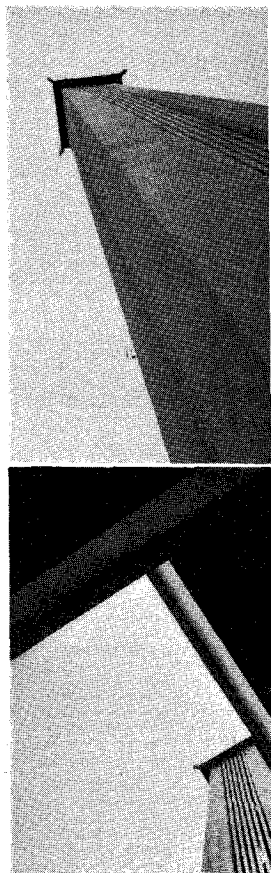
献堂の祈り

十二使徒評議員会々員
ゴルドン・B・ヒンクレイ

天にまします聖なる父よ、御子主イエス・キリストの御名により、この日われらは御前に頭を垂れ奉る。御父よ、われらの心は感謝に満ち充てり。われらは、われらがあなたの息子と娘たちであり、またあなたがわれらの父なることを知るを感謝し奉る。われらは、われらがまことに兄弟姉妹であることを感謝し奉る。われらは、あなたが聖なるみたまを注ぎたもうことを感謝し奉る。われらは、われらの生きんがために自らの生命を与えたまいしあなたの御子の贈りものに対し感謝し奉る。御父よ、われらはあなたを愛し奉る。また御父よ、われらは、われらの主なる救い主にまします御子を愛し奉る。われらは、あなたが少年ジョセフ・スミスに真実あらわれたまいしことを感謝し奉る。われらはジョセフ・スミスをこの神権の時代にあなたの選びたまいし予言者として敬まい尊ぶ。われらは啓示のたまものに対し感謝し奉る。われらは、あなたが今なおあなたの予言者デビッド・オ・マッケイを通してあなたの子供たちに語りたもうことを感謝し奉る。御父よ、われらは、われらより前に此世を去りしすべての人々の信仰に対し感謝し奉る。またわれらは、回復されし福音を教えん

がためにこの地に来りしすべての人々の業蹟に対しあなたに感謝し奉る。これらの人々の忍びし数々の悲しみのすべてを思うとき、われらの胸はいたむ。ねがわくは彼らにつきて、常に感謝の念をもて歩くことを得しめたまえ。

次に父なる神よ、われらはこの建物に対し、またこの建物の立つことを得させたるすべての人々と、あなたの聖きみたまに導かれてこの建物の立つ地を購入したる人々と、奉獻の精神によりこの建物を立てたる人々との業蹟に対しあなたに感謝し奉る。ねがわくはわれらがこの所に居る間いつも感謝の念をもて歩かせたまえ。次に御父よ、われらはこの建物を神の宮としてあなたに捧げ奉る。この建物を要したるすべての費用は支払われ、いささかの負債もなし。われらは今何の制限も受けずにこの建物をあなたに捧げ奉る。次に天にまします御父よ、私は今日ここに集りたるすべての会衆を代表し聖なる使徒職の権能により、北部極東伝道部東京北支部の建物をわれらの父なる神にましますあなたに献納し奉る。御父よ、あなたの子らの贈り物としてこれを受入れたまえ。あなたのみたまをここに留まらしめたまえ、而してあなたの御



力によりこの建物を保ちたまえ。ねがわくは神よ、この建物の基礎より塔のいただきに至るまでのこりなく祝福を与えたまえ。自然力による惨害を受けぬように守りたまえ。この建物を礼拝の家となしたまえ。学びの家となしたまえ。信仰の家となしたまえ。またあなたの子らが集り合い互いの交わりを楽しむ楽しみ場所となしたまえ。またあなたの聖なる真理がこの教壇より説かれんことを、この会堂において神をほめたたえる賛歌があなたにささげられんことをねがい奉る。またこの建物をして数々の宣教師が世界に出て行く所となしたまえ。愛する者たちに先立たれし人々が信仰をもて亡きあとを弔う所となしたまえ。各教室をして、あなたの御わざにつきて学ぶ学問の行なわれる所となしたまえ。神よねがわくはこの建物に入り来るすべての人々が、汚れなき手と純き心をもて入り来らんことを。

われらは悪の力がここに存在せざるよう、悪の力を責め戒しむ。ねがわくは、この場所をたえずその数を増し行く大勢の人々の集る所となしたまえ。ねがわくは、この支部が再三分割せざるを得ぬほどその会員の数を増さんことを。而して

あなたの御ことばがこれを始めとしてこの国の隅々に及び、この建物を始めとして多くの美わしき礼拝の家が建てられんことを。またあなたのみたまをこれらのまわりの庭に留まらせたまえ。ねがわくは、これらの庭が常に美わしく保たれ、外部の人々が入り来りて学びかつ礼拝をするよう常に招くものとなしたまえ。次に御父よ、われらはこの聖き建物にあらゆる善き祝福のあるよう祈りねがい奉る、而してこの建物をあなたに献納したる如く、われらはあなたの御用に立つためにわれらの生涯を再び献げ奉る。ここに働らく宣教師たちをめぐみたまえ。あなたの忠実な聖徒たちをめぐみたまえ。信仰に無関心なる人々をさえめぐみたまえ、かくしてこれらの人々があなたのみもとへ立ち返えらんことを。以上そのほかあらゆる善き贈り物をたまわらんことをこの献堂の日にへりくだりて祈り奉り、かつまたあなたが全世界を通じてこの御わざを祝福したまわんことをねがい奉る。かくの如く、われらはあなたについて証しをする如く祈りのことばを述べ、かつまたあなたの祝福があなたの選びたまいししもべたちの上にも、いたるところに在る心のまことなる人々の上にもあらんことをこいねがうと共に、平和がこの地に留まり、あなたの御わざが伸び栄えるようこの国に数々の祝福を注ぎたまわんことを、あなたの御子、主イエス・キリストの御名によりねがい奉る。アーメン

千九百六十四年四月二十六日（北部極東伝道部東京北支部にて）

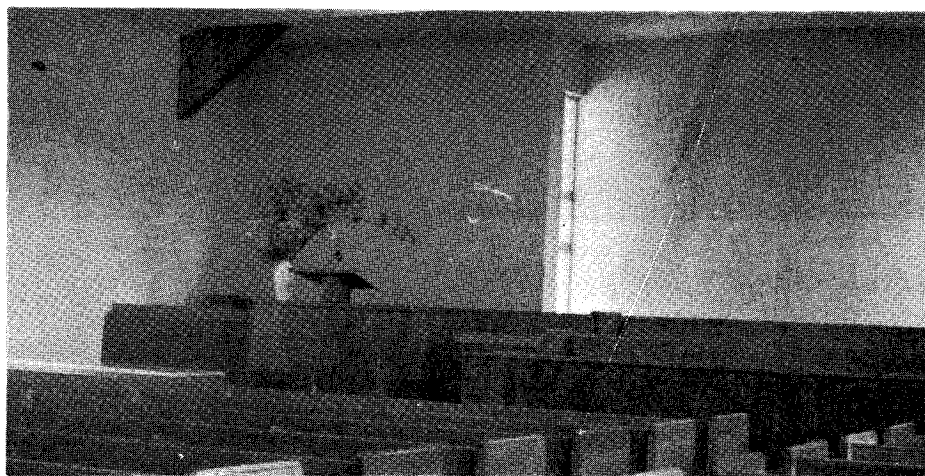
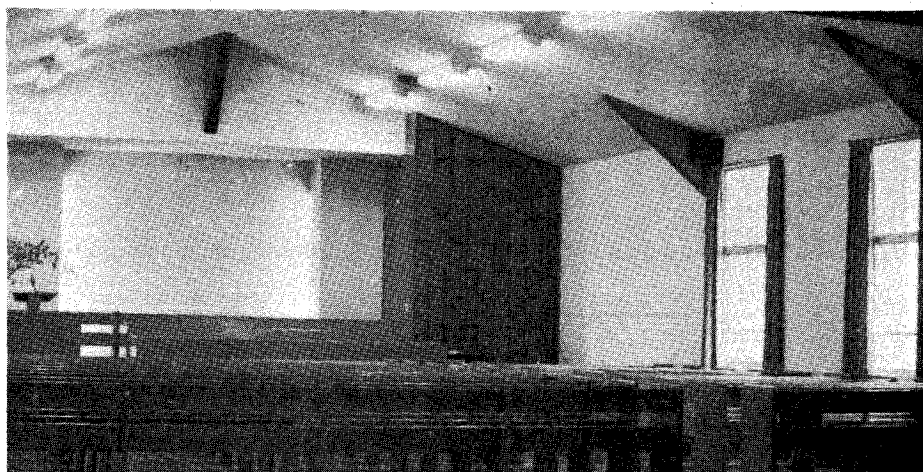
教

●礼拝室

固定椅子が通路をへだてて二列に並んでおり、全部で二十脚ある。右側は聖餐準備室

●礼拝室 説教台

マイクローフォンがおかれ、左側前方には聖餐台がある。



会

●バプテスマフォント

温水、冷水両用

階段は左右にあり更衣室に行く

普段は蓋をして教室として使用する。

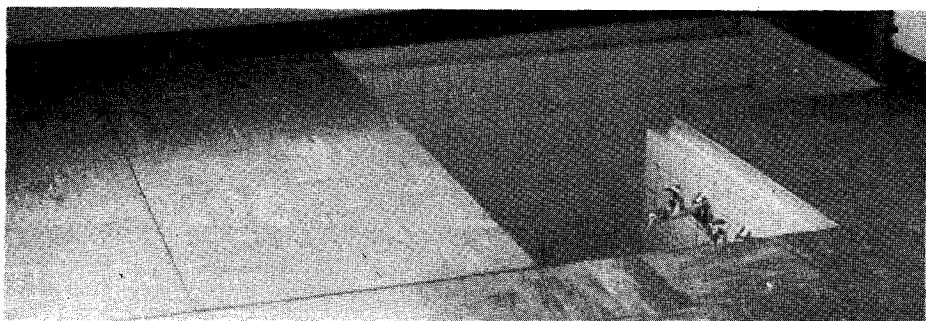
●ホール

MIAの活動その他に使用される

前の礼拝室とはカーテンで別され

大集会が開かれる時はホールも礼

拝室となる。

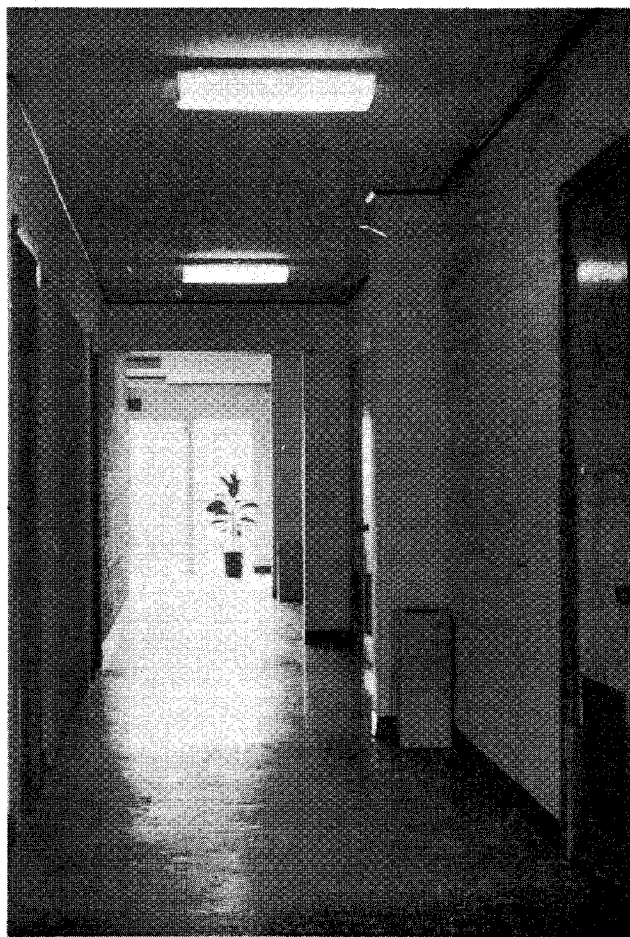
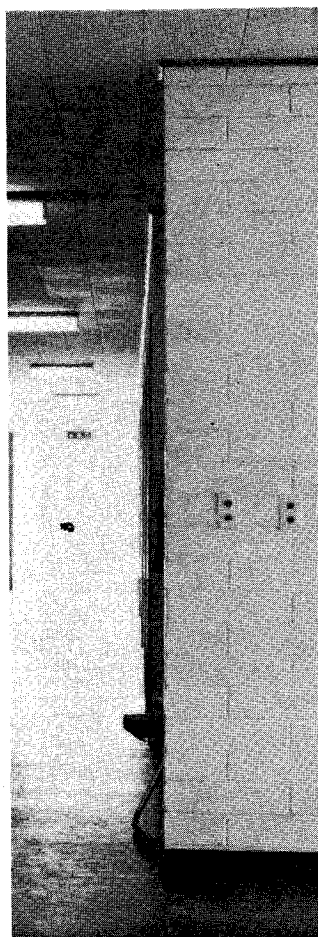


●ホール入口より玄関を望む、右側にパ
ブテスマ室、台所更衣室、化粧室と並
ぶ

堂

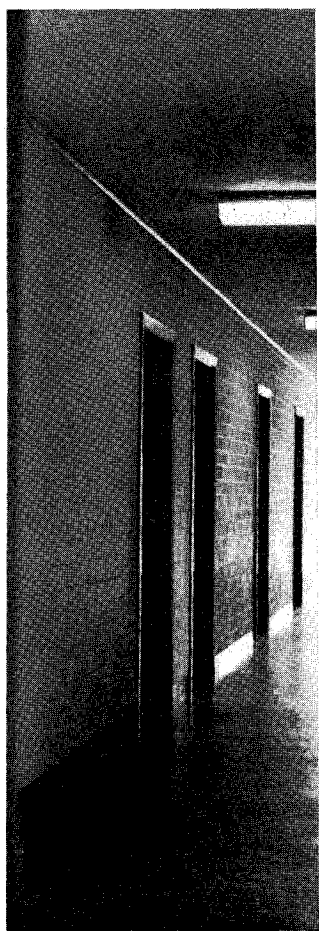
●玄関より教室を望む、左右に教室が大
小八つある。

紹



●教室
各教室には黒板及びロッカーが設備さ
れている。

介





鍬入れ式 一九六二年九月三日東京北支部
一九六三年一月六日東京西支部（上下）



完成した東京西支部



鍬入れから献堂まで

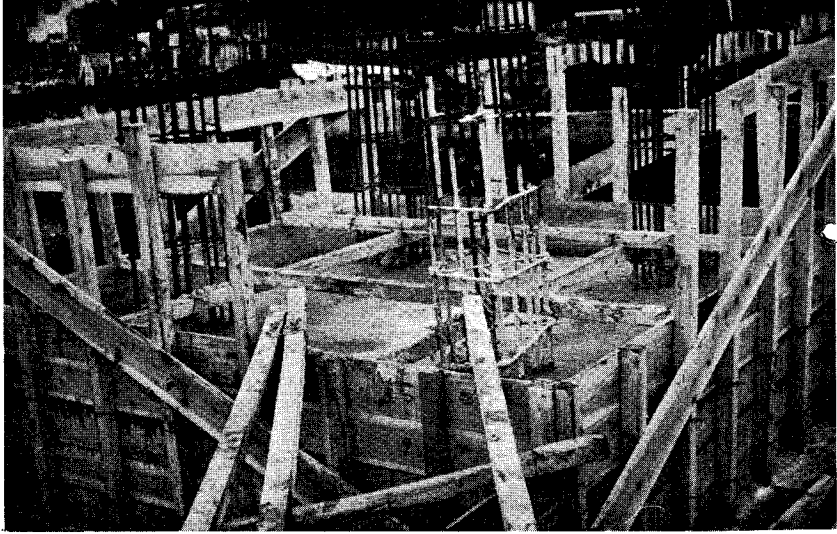
日本の地にも鍬が入れられた

遠く明治のころに改宗した人達も、つい最近改宗した人達も同じであった。望むものは

夢みるものは同じであった。それは他の人が住んでいる建物を高い家賃で借りて教会の集会をそこに持つことではない。教会以外の目的のために建てられた建物を改築してそこを

教会堂とすることもなかった。自分たちの末日聖徒の、モルモンの建物を持つことであった。しかし、夢みていた教会堂が東京北支部と西支部に建てられると知らされた時、

塔の基礎 東京北支部 一九六二年十二月



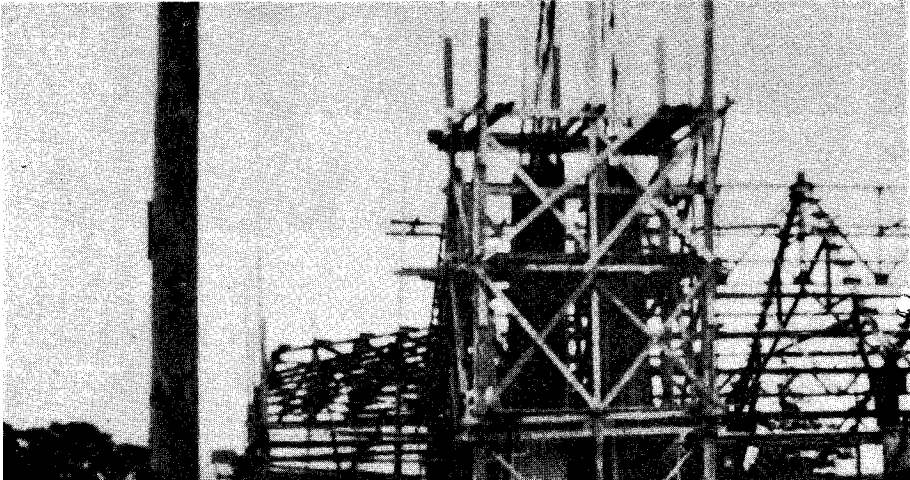
彼らは喜びと同じように不安を感じた。その計画は彼らの知っている日本の考え方からすると、あまりにも大きく、とほうもなく、不可能とさえ思えるものであった。しかし伝道部長をはじめ、建築のためにはるばるアメリカからやって来た建築部の長老たちは当然のことのようにその計画を実行に移して行った。

一九六二年九月三十日東京都中野区江古田町に東京北支部の教会堂を建てるべく鍬入れ式が行なわれた。次いで一九六三年一月六日には東京都武蔵野市吉祥寺に東京西支部の鍬入れ式が行なわれた。

奉仕者の働き

特色のある勤労奉仕宣教師制度がしかれてその宣教師たちを中心に会員たちの奉仕活動が始められた。学業を持ち職業を持っていた者が、それを投げうち一年間あるいは二年間純粹に奉仕の生活をするのである。彼らは宿舍に合宿し、毎日祈り、毎日力のおよぶかぎり働いた。建築に関して職業人でない彼らは、始めためらい、とまどいながらもだんだんに慣れ力をつけて行行った。彼らの働きはめざましく力強かった。俗世的なものを捨て去った美しさがあり、主の御業に奉仕する者のみが

塔上部 東京北支部 一九六三年二月



持つ美しさであった。支部の会員たちも休日
を返上し、仕事を終えたあと夜おそくまで働
いた、なれぬ高い所に登り鉄骨に木材を結び
つけ、重いコンクリートブロックを運んだ。

一人の兄弟が屋根の上から、大きな音と共に
コンクリートの床の上にたたきつけられた時
一瞬人々は顔を見合せかけ寄った。兄弟は笑
顔をむけてなにこともなかったように再び屋
根に登って行った。そこに主の御恵みがあっ

た。この奉仕で得た証は彼らの信仰生活の上
に大きな財産となって残るであらう。

その間に工事の進行に合わせ、扉もまだ完
全に付けてないような会堂でMIAの全国大
会が開かれた。床にはまだタイルもなく、各
教室には扉がなかった。しかし全国から集ま

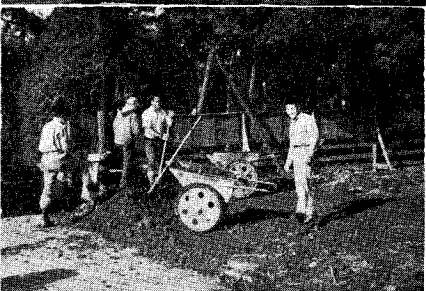
った若人は目前に主の業を見、身体にその力
を感じた。

完成へ献堂の祈りは捧げられた。

一九六三年も終りに近づくころ、相次いで
二つの建物は完成し感謝会が開かれた。会場
で一人一人紹介される勤労奉仕宣教師の胸を
張り誇りにみちた凛々しいその姿は美しく輝
いていた。

一九六四年四月二十六日、東京北支部、東
京西支部は、ゴルドン、B、ヒンクレイ十二
使徒を迎えて献堂式を行った。ヒンクレイ使
徒の献堂の祈りによって、何年間、何十年間
等しく待ちうけていたものが、はじめて私た
ちの手のうちに入ったのである。苦難の歴史

であり、犠牲の歴史であった暗闇の世界の夜
明けを迎えたのだ。これから続く道は、今以
上にけわしく、むつかしいものである。今
ある輝やかしい会堂をくずさぬ意味でも、こ
の輝やかしい会堂を一つでも多く建てるため
にも私たちは、ありとあらゆる誘惑にうち勝
ちときの声をあげて進まねばならない。



その働きのただ一つでも、み心に従って用い忘れ給うことはないであります。また、

サムエル記下 第廿三章 を読みますと、

ダビデの勇士たちの中に「初めの三勇士」があり、その下に「次の三勇士」があり、その下に「三十人の勇士」があった。

その三十人の勇士は誰一人次の三勇士に達する者がなく、次の三勇士は、誰れ一人初めの三勇士に達する者がなかったことが記されています。

然も、彼ら各自の行為が、忠実に、誰が、何を、如何に行つた、かを聖霊は、周到に、注意深く、正確に、記録してあります。また、これらの代表的なものとして、

ロマ書十六章に

フィベのことが書いてあります。彼女が如何にあったか、何をしたか、ロマにある教会に対する憐みと援助について、彼女の主張する土台は何んであったか、が述べられています。また、プリスカとアクラのことが（妻のことが夫のことより先に書かれてあります）彼等が使徒パウロの生命を救うために、自分の首をさえ差し出し、そしてパウロの感謝と異邦の全教会の感謝を得た次第が記されています。次に「愛するエパネト」、「一方ならず苦労したマリヤ」のことが書いてあります。又使徒パウロは、「ツルバナとツルボサ」

と「愛するベルシス」について書いていますが、「ツルバナとツルボサ」兩人については、「主にあって労苦している」と云っているが、「ベルシス」については、「主にあって一方ならず労苦している」と、一方、をつけ加えています。

聖書は、十二の部族のつかさの名前や、供え物の詳細について述べ、また、三勇士の名前や行為もくり返し述べ、ツルバナとツルボサやベルシスについては「一方ならず」とこまかい使いわけをする等、おのおのその名前と奉仕とは、何んの混乱もなく、急ぐこともなく、不明なところもなく、各人、それぞれが行つたことが記され、おのおの自分の地位を得、自分の報いを受けているのであります。これが、聖なる、聖書の教えている処であることに注意したいものです。

何んと、おごそかな、又、我々の心を励すことでありましょう。

私したちが主に捧げる奉仕の働きのただ一つでも、主の書きものに記されないものはないのであります。

その働きの事実だけでなく、働きの様子をも記されるのであります。なぜなら、神は、その様子をも味い給うお方であるからです。

「神は喜んで与える者を愛し」、「楽しく働く者を愛し」給います。

ダビデが逆境にある時、部下の勇士たちの働きによって、彼の心は、如何に慰められたことでありましょう。

後世のプリスカ、アクラ、フィベなどの敬虔な行為のあとをたづねることは、主の心に如何によることとなりましょう。

このなまぬるく、活気のない信仰告白の末日に於て、真実の心をもって、キリストを愛し、神のおどう畑の敬虔な働き人として、また、神の宮居建築のため身を捧げ、神の王国を建設する建築宣教師が、各支部から馳せ参ずること、更に又、彼等を助ける各支部の姉妹方の愛の奉仕は、主の心を、如何に喜ばすものでありましょうか。

願はくば、神の御霊が、我等の心を動かして敬虔ならしめ、我等が、自分自身のために生きるのではなく、我等を愛し、御自身の尊い血をもって我等を贖い、神の王国の世嗣として現在あらしめ、希望を与え給うた、御子のために生きるものとならしめ給うように。

やがて、天に於て、父神にまみゆる時た悔なくまみゆることが出来るように、神のみたま、我等の心を導き給らんことを。

質疑疑応答

解答者

ジヨセフ・ワイールディング・スミス長老

十一使徒会会長

質問

近ごろ討論をしていましたときに、使徒パウロが「神はあらかじめ知って居られた者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった」とローマ人への手紙八〇二十九で述べていることの完全な意味は何かという問いが出ました。またパウロはエペソ人への手紙一〇五のところでも「わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである」と言っています。

教育の重要性がひじょうに強調されているので、現在教育を受けていない人々、または教育を受ける能力のない人々は、それだけでもはや日の栄よりも低い栄の国へ行かなくては

はならぬように思えます。また多くの事について高等教育を受けていない人々、私はある点について開拓者たちのことも考えています。が、これらの人々はこの世の生涯をすでに閉じて居り、高等教育を受けていないために、信仰やあかしが強いにもかかわらず一生涯努力して求めた最高の栄よりも低い栄の国に行かなくてはなりません。

才能をもっていながらそれを利用することができないということは、とくに今日のような世界の経済制度のもとでは充分正しい言いわけであると思えますけれども、なお制度と環境とかいいうもののために、次の世において最高の栄を得る資格が得られないとは、私にとって不公平に思えます。

私は悔改めが人生にとってきわめて大切な部分であることも、また赦しがそうであるこ

とも充分信じていますが、善いにせよ悪いにせよ私たちの行ないによって結果がきまるために、私たちはまたあの「あらかじめ定められた」結果に直面するのであります。

もしも私たちが自分の前世を、すなわち私たちの究極の行く先は始めから知られていたことを考えるなら、私はまたフォン・パウエンのような大科学者のもっている学問がないのでとくにこの感を深くするのですが、私は単にこのような人ほど大きな精神的能力がないというだけのこと、私が一生けんめい努力をしても困難にうち勝って目的を達することができないように思えるでしょう。

このことについて解説をして下さるならありがたいと思います。

解答は次頁

パウロが「あらかじめ定められる」と言ったのは どういふ意味ですか

解答

この質問に関連して問題になる聖句は次の通りである。

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し、

「みまえに清く傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、

「わたしたちにイエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとすると共に従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである」（エペソ書一〇三―六）。

「神はあらかじめ知っておられた者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。

「そして、あらかじめ定めた者たちを更に召し、召した者たちを更に義とし、義とした者たちには更に栄光を与えて下さったのである」（ローマ人への手紙八〇二九―三二）。

福音と「救いの計画」とをていつ的に研究するならば、救い主

を信じて受け入れた者たちは、その者たちの生活がどのような生活であろうとも、救われるように「あらかじめ定められていた」と結論するのは確かにあやまりであるということがきわめてはっきりしている。「救いの福音」の基は、誓約と福音の律法に忠実に服従することにあり、このことは、主イエスとその靈感を受けたしもべたちの教えにきわめてはっきりあらわれている。パウロは、前の世に於て多くの者が神の命によって定められ、この世に於けるその者たちの行いがどんな行いであろうと救われることにきままっているという考えを伝えるつもりはたしかなかった。しかし、このことはペテロをしてパウロの手紙の中には「ところどころ、わかりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている」（ペテロの第二の手紙三〇十六参照）と言わせた、パウロの教えの中の一節であったかも知れない。

われわれは「救いの計画」を学んで、人間は一人のこらず自由意志という賜を与えられたことを知っている。それは神の律法であってひじょうに正しい律法である。人間はだれひとり自分のとる針路

を選べと強制されるべきではない。救いは、個人の行為が絶対の自由にもとずいて為されるという事実に応じて一人一人に与えられる。神の王国には少しも強制ということはない。人間は自働機械ではない。人間は信じることも仕えることも、さては信じないことも主なる神の誠命に背くこともみな自由にできる。そして、良い酬いは功績によって与えられ、救いは神の愛子イエス・キリストのあがないの血によつていや増す「神の与えたもう無料のめぐみ」であるが、神の律法は神の定めたもう律法を忠実に守ることによる功績をもとにして立てられている。これら神の律法は永遠を通じて存在する道であつて、今に至るまで試めされ試験された末その正しいことが証明されているのである。何人といえども、つていして信仰を試験し、人類を救つて日の栄の最高に昇らせるために太初から立てられている永遠の真理に従がわなかつたなら、救いを得ることはできない。

太初に於いて数々の例外があつたとか、また或る者は救いのもとになつてゐる数々の条件に従がわなくてもあがなわれて神の国に救われるようになっていたとか、というような考えをパウロはけつして伝えるつもりでなかつたことは確かであると言えるであらう。

以上のことがみな本当であつたなら、パウロが言つたさきのことばに關して正しい認められる何らかの結論に達することができないものか。事実それはできるのである。今パウロのことばをもつと厳密に考えてみよう。そのことばは、前の世で忠実であつた者たちは御子のかたちに「似たもの」として「あらかじめ定められた」というのが本当の意味である。最初にわれわれは神のかたちに似せて「つくられた」と教えられた。これはローマ人への手紙の中にはつ

きり言つてある。それならば、われわれは世界のつくられた前に神の王国で支配者であつた「偉大なる者たち」の信仰と誠実さを「父なる神」が知つておいでになつたという事実を見失なつてはならぬ。これらの者たちは疑いもなく試みを受けて自分自身をためし、その誠実なことが前の世に於て知られていた。それであるから、これが本当であることを知つていたパウロは、神がこれらの者の誠実なことを知つておいでになり彼らが墮落しないことを確かに知つておいでになつたので、「あらかじめ定めたもうた」者たちもあつたとき「ばり言明することができたと思われぬ」。

われわれは、前の世である者たちが誠実であつたことについて何程か知つてゐる。アブラハムの書を読んでわれわれはこれらの者について多くのことを学んだ。また主なる神はこれらの者の誠実さを見そなわしてこれらの者がけつして墮落をしないと確かに知つて、神のみわざをするためにこれらの者を特に任命したもうたと思われぬ。このような者たちとはアダム、エノク、アブラハム、モーセその他予言者ジョセフ・スミスに至るまで代々この世に在つた多くの人たちである。

「さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英知たちを見せたまいたりき。而して、これらすべての者の中には、高貴にして偉大なる者多くありたり。神、これらの靈を善しと見たまい、これらの靈の中に立ちて言いたまへり、これらの者をわが統治者となさん。神、靈なりしこれらの者の中に立ちて、これを善しと見たまいたればなり。而して、神われに言いたまひけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたりと。これらの者の中に、神の如き者一人立ちて共に在りし者たち

に言いけるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。而して。これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。而して、最初の位を保つ者は更につけ加えられ、最初の位を保たざる者は最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して第二の位を保つ者はとこしえに栄光をその頭につけ加えられん」(アブラハムの書三〇二十二—二十六)。

ここに言つてあることばに含まれている意味はきわめて明瞭であつて、すべての者は最初の位を保つことができたのであるが、最初の位を保つ心のない者が多く居たことを示している。それであるから、この者たちはその価値によつて酬いを受けるはずであつた。また従つて、各々の忠実と従順とをもとにして、すべての者に自由に酬いを与えるとの約束がしてあつた。この者たちの中にはほかの者のようにはしくない者があつたかも知れないが、同じ酬いを受ける特権はすべてに提供されていた。人類を神の国の最高にまで昇らせる主たる誠命というのは、神の律法に従ふこと、原則に専念すること、光と真理とを追い求めることである。

それであるから、あらゆる努力を信仰と服従にかたむけてこつこつと歩く人も、一層早くまたは手ぎわよく進む人と同じ酬いを受ける資格がある。真理とは学んでおぼえるものである。真理をおぼえるのに、ある人はほかの者よりも長くかかるかも知れないが、誠実と忍耐の徳はかならずその酬いを受けるにちがいない。神の律法に従がわぬ人、もしくは教えを喜んで受けない人は酬いを失なうのが当然である。しかしながら、神の計画に従ひ、完全という目標は

従順であつて進んで学ぼうとする者たちすべてに開放されている。それであるから、だれでも真理に専念する人、完全を得るために身も心も尽して働らく人は目標に達することをきまなければならない。われわれがながめるように、永遠とは明らかにきわめて長い時間である。忠実でしかも真実な人々の知識が進歩する能力は此世ばかりにかざらされているはずがない。それであるから、すべての人々が喜んで力を尽すなら、すべての人にとつて完全に至る希望がある。また此世をすぎて「あの世」へ行った時の方が、もっと知識が容易に得られることも心に留めておくべきである。此世に生きている人間の勘定によれば、永遠はきわめて長い時間であるが、われわれが此の世の束縛を越えた時に、知識と知恵と真理と、そのほかあらゆる進歩の原則を得る手段がさまざまにあらうと信ずる理由は少しもない。

パウロがその心の中に思つていた通りが、われわれの持つている譚訳にきわめて明瞭には表わされていないかも知れない。パウロがある人々は高い栄に昇れないように「あらかじめ定められていた」と教えたということは否認されなくてはならない。これと同様に、ある人々は信仰をためされることなしに救われるように「あらかじめ定められていた」ということも否認されなくてはならない。真理をすててそむいた者たちがルシフェルと共に追い出されたのは、自由意志の賜をもつていたという大きな真理によることである。この肉体をもつ仮の世に生まれて来る特権を得たすべての者は、前世においてその資格を得ていたので此世に生まれて来たのである。地球が造られない前に、霊たちの中にはこの地球へ来て肉体を受けてか

(343頁に続く)